

自 己 評 価 表 (最 終)

愛媛県立松山工業高等学校(全日制課程)

学校番号 24

教育方針	教育基本法 の精神にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する豊かな人間性と創造性を備えた実践的な技術者を養成する。	重点目標	1 基本的な生活習慣の確立と自律心の育成 2 分かる授業の展開と基礎・基本の定着 3 探求心の涵養と創造力・実践力の育成 4 資格取得の実践とキャリア教育の充実 5 部活動の充実と個性豊かな人間性確立 6 地域との連携とボランティア活動推進
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	ICTを活用した授業を全授業の80%以上で実施し、「分かる授業」と「考える授業」の展開を目指す。	B	授業参観週間の全授業におけるICT活用率は73%である。	ICT活用の研究授業を行うことや、教員を5人程度の小チームに分けICTの相互授業研修を行うなどして、教員のICT活用指導力の向上を図る。
	資格取得の充実	各種資格・検定試験の合格者総数5500人以上を目指す。	B	3学期末での合格者総数が5172人であり、昨年より少ないが、全国の工業高校と比較すると高い数値が出ている。	2年生での資格取得状況が、取得総数やジュニアマイスターの顕彰取得に大きく関わってくるため、早い段階での資格取得奨励を強化する。
生徒指導	基本的な生活指導の充実	自ら進んで正しい挨拶のできる生徒100%を目指す。	B	ほとんどの生徒が、相手や状況に応じた正しい挨拶ができている。	生徒、教職員ともに気持ちの良い挨拶ができる雰囲気づくりを進める。状況に応じた正しい挨拶ができるよう学校生活の様々な場面で指導を行う。
	交通安全指導の充実	登下校指導や交通安全教育の充実により、交通事故発生数0件を目指す。	C	23件の事故報告があった。重いけがや命にかかわるような重大交通事故は発生していない。相手確認や警察への通報などの事故後の対応に課題が残る。	登校指導や生活指導、ホームルーム活動等を通して、交通安全に対する意識を高めさせ、交通ルールやマナーを順守する態度の育成を行う。交通安全教室等で、警察や交通安全協会との連携を密にし、交通事故防止に努める。
進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。	A	求人状況はよく、学校推薦による就職率は100%である。	生徒と企業とのミスマッチをなくすために、インターシップや職場見学などのあらゆる機会を捉え、企業理解に努めさせる。
	進学指導の充実	生徒が自主的に学習できる環境を整えることにより、国公立大学合格者20名以上を目指す。	C	国公立大学合格者は7名である。	国公立大学や、評価の高い本校を指定校としている私立大学について知らせることで、高い目標を持った進学希望者を育てる。

特別活動	特別活動の充実	全国大会上位入賞10部門以上を目指す。	A	運動部では、「第30回全国高等学校ボクシング選抜大会バンタム級第1位」、「令和元年度全国高等学校総合体育大会バンタム級第1位」、「令和元年度茨城国体バンタム級第3位」、「令和元年度第18回全日本女子選手権大会フライ級第3位」、「2019年JOCジュニアオリンピック自転車競技大会男子U-17ポイントレース第3位」、「第25回シクロクロス全日本選手権大会男子ジュニア第1位」であった。生産部では、「第4回スモウルビー・プログラミング甲子園決勝大会優勝・準優勝」、「Hondaエコマイレージチャレンジ2019二人乗りクラス優勝」、「第14回若年者ものづくりコンテスト電子回路組立て職種全国大会銀賞」、「第19回高校生ものづくりコンテスト全国大会化学分析部門優勝」、「第40回全国高等学校プログラミングコンテスト第3位」であった。また、世界大会では、「第69回ジュニア・ユース国際ボクシングトーナメント(ハンガリー)」、「アジアユース選手権大会バンタム級(モンゴル)」、「WBSC U-18男子ソフトボールワールドカップ(ニュージーランド)＜日本代表が優勝・世界一位＞」、「第7回男子U-17アジアカップ・ソフトボール(マレーシア)＜日本代表が第1位＞」に日本代表選手として出場した。全国大会上位入賞11部門、世界大会参加4部門である。	環境整備を最優先に考えている。また、より有効なトレーニング方法、栄養管理指導などの研修の機会を、より多く設けることを計画している。生産部に関しては、令和元年度の全国大会から、出場選手に部の下級生を同行させ、会場の雰囲気、作業手順を学ばせており、次年度の入賞に結びつくよう対策を取っていることから、結果が期待できる。
工業指導	社会貢献の充実	「松工ものづくり社会貢献プロジェクト」として、ものづくりを通じた社会貢献を各学科一つ以上行う。	B	全8学科とも「課題研究」とおして、一つ以上の社会貢献を目指した活動を実施している。また、地域との連携を図ることで、生徒達の社会貢献に対する意識が高まっている。	来年度も継続して取り組み、内容を充実させる。
人権・同和教育	人権教育の充実	松工人権宣言の100%の周知を目指します。	A	4月に全校集会の場で周知を図り、各ホームルーム教室に宣言の内容を掲示した。11月には、全校生徒に松工人権宣言についてのアンケートを実施した結果、ほぼ全員に周知できている。知らないと回答した数名の生徒に対しては、後日学習会を開いて周知を図った。	令和元年度は松工人権宣言の周知に重きを置いたが、次年度は、宣言内容に基づいた実践力も高める。
環境整備	奉仕活動の充実	各クラス・部・科で、年1回以上の奉仕活動を行う。	B	24のクラス、8学科、27の部活動で奉仕活動を行った。クラスと学科のすべて、部活動の58.7%で実施できた。全体では、78団体中の59団体、75.6%が年1回以上の奉仕活動が実施できている。	部活動での奉仕活動数を増加させる。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。